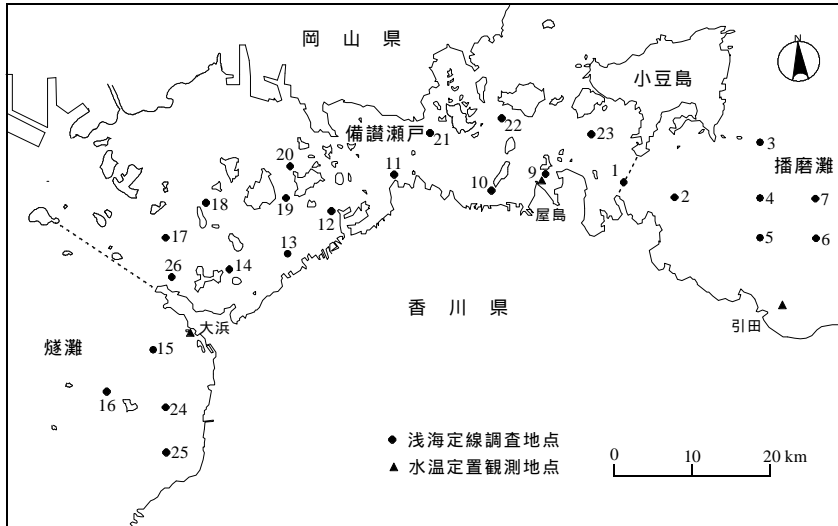


香川県漁海況速報 平成18年 7月 (H18-4号)

香川県水産試験場

1. 海況

1) 観測地点



2) 浅海定線調査

(1) 調査日

平成18年7月5日 (播磨灘) 4日 (備讃瀬戸、燧灘)

(2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「著しく低めから平年並み」、塩分は「やや低めから平年並み」、透明度は「やや低めから平年並み」、溶存酸素は「かなり低めからかなり高め」であった。
 平年偏差 = 平均値 - 平年値

		水温 ()			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素(ml/L)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	21.7	20.0	17.3	31.2	31.5	32.0	5.1	5.10	4.34
	平年値	22.1	20.6	18.8	31.6	31.8	32.1	7.7	5.26	3.73
	平年偏差	-0.4	-0.6	-1.5	-0.4	-0.3	-0.1	-2.6	-0.16	0.61
	状況	平年並み	やや低め	著しく低め	やや低め	やや低め	平年並み	やや低め	平年並み	かなり高め
備讃瀬戸	14地点平均値	21.1	20.4	20.0	31.4	31.8	31.9	4.3	4.51	4.11
	平年値	21.3	20.8	20.6	31.5	31.8	31.9	4.2	4.71	4.46
	平年偏差	-0.2	-0.4	-0.5	-0.1	-0.1	0.0	0.1	-0.20	-0.35
	状況	平年並み	やや低め	やや低め	平年並み	平年並み	平年並み	平年並み	やや低め	かなり低め
燧灘	4地点平均値	24.3	20.1	17.5	30.9	32.3	32.8	6.8	4.91	3.48
	平年値	23.9	20.2	18.2	31.4	32.4	32.7	9.1	5.28	3.73
	平年偏差	0.5	-0.1	-0.7	-0.5	-0.1	0.1	-2.3	-0.37	-0.25
	状況	平年並み	平年並み	やや低め	平年並み	平年並み	平年並み	やや低め	やや低め	平年並み

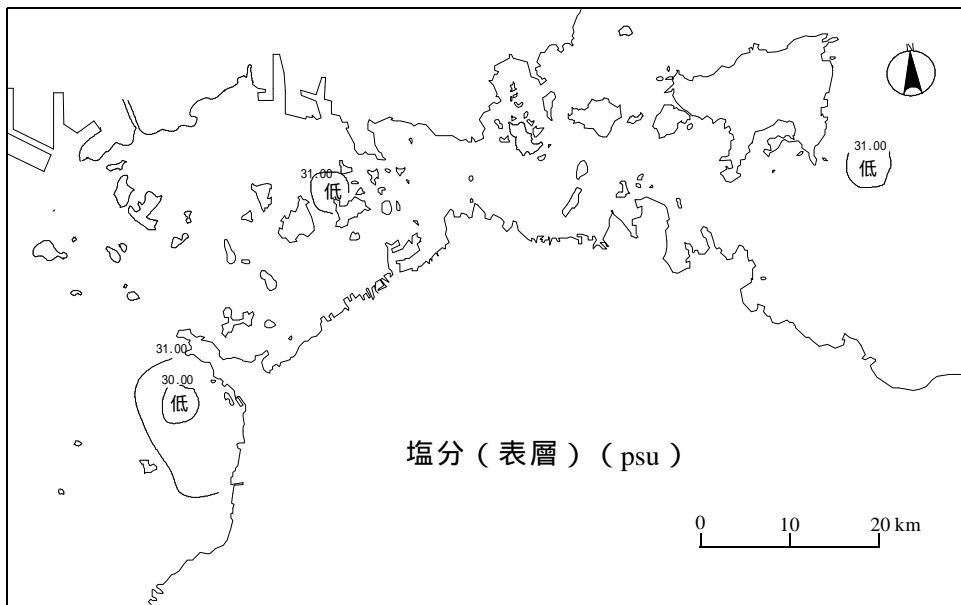
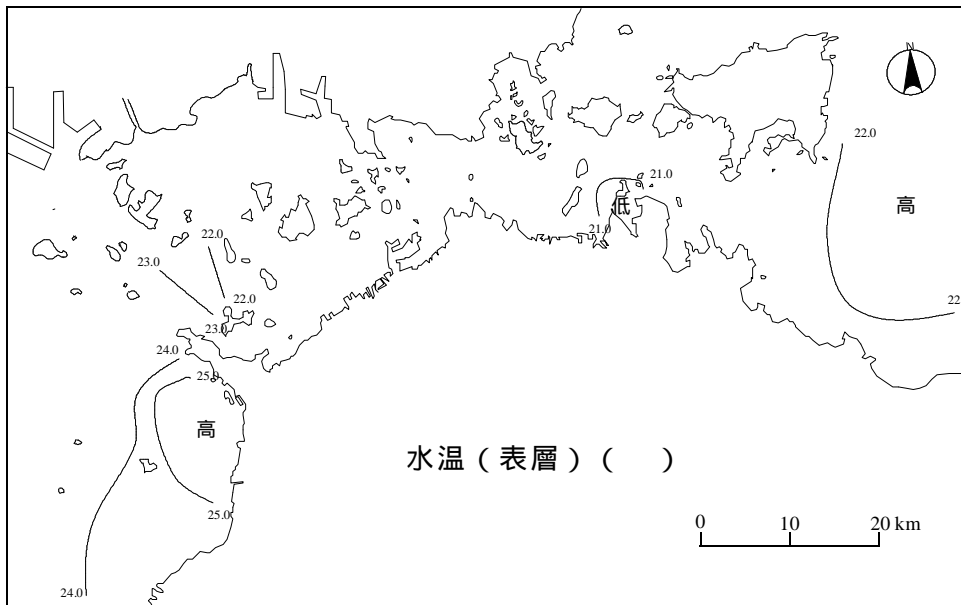
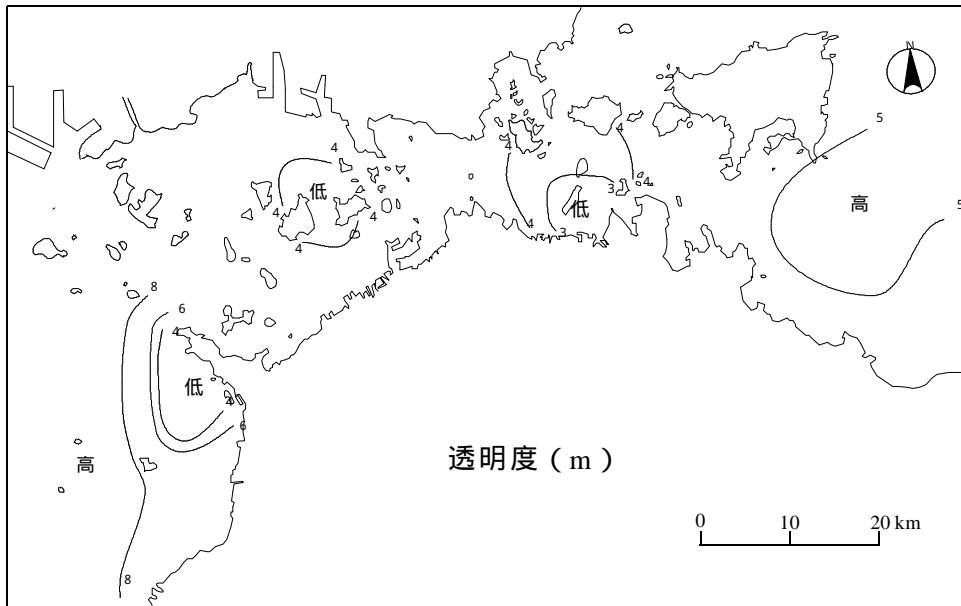
平年値の算出期間

水温、塩分及び透明度：昭和48年（1973）1月～平成13年（2002）12月

溶存酸素：昭和48年（1973）2月～平成13年（2002）12月

水温は、毎月1日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	(: 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



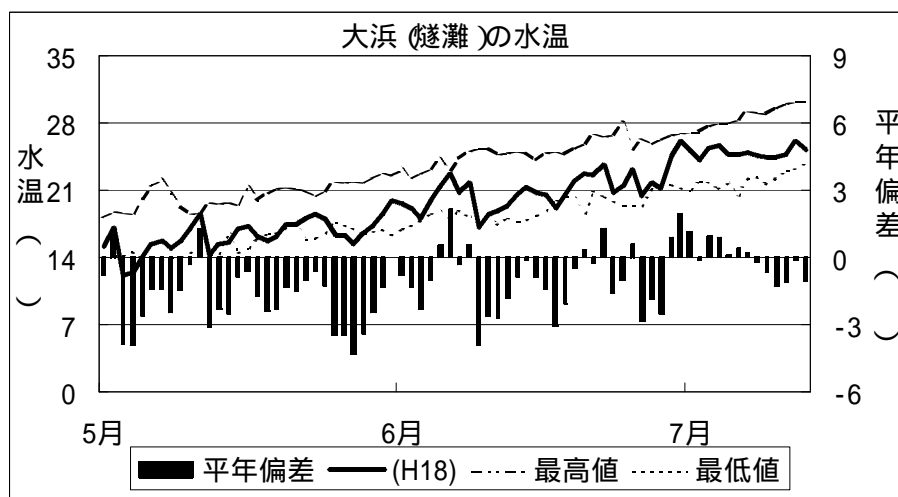
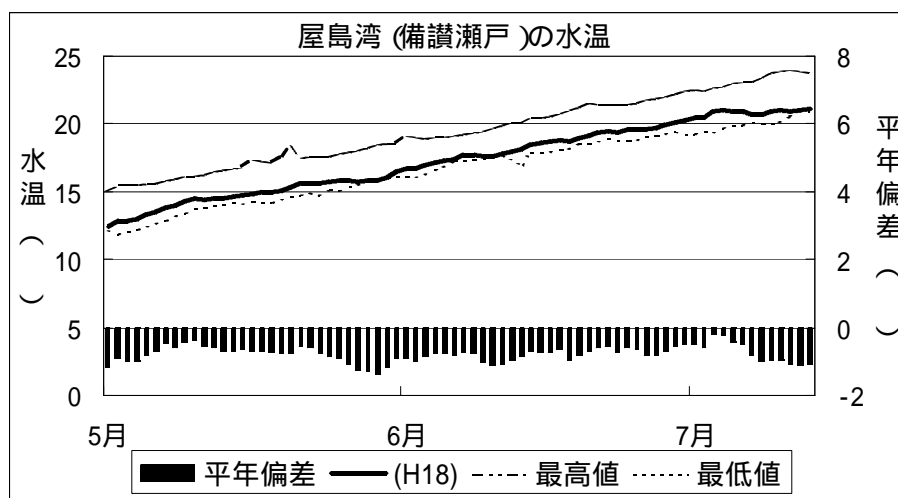
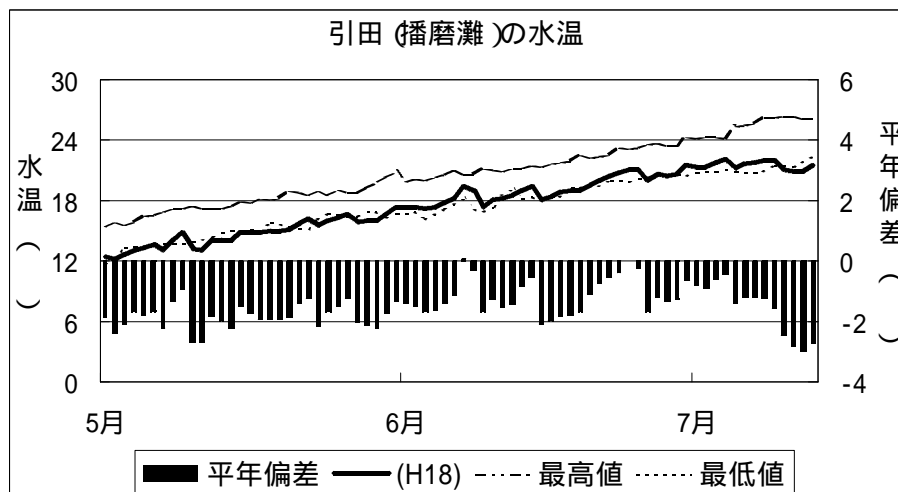
2) 定置観測(水温)

播磨灘(引田): 6月上旬以降、平年偏差が-2.0 未満で推移していたが、7月中旬には-2.4 ~ -2.9 まで低下した。

備讃瀬戸(屋島): 6月上旬以降、平年偏差が0 ~ -1.0 の間で安定的に推移している。

燧灘(大浜): 6月は平年偏差が-1.0 ~ -3.0 の間で推移する日が多かった。7月第1週は平年値を上回る日が続いたが、第2週以降再び平年値を下回る日が続いている。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成17(2005)年
屋島: 昭和50(1975)~平成17(2005)年



3) 赤潮

播磨灘：7月中旬、さぬき市津田沖で筋状のノクチルカ赤潮と、屋島湾でヘテロシグマ赤潮の発生がそれぞれ確認された。

備讃瀬戸：発生なし。

燧灘：発生なし。

(いずれも7月13日現在)

4) 卵稚仔

調査日：平成18年7月5日(播磨灘) 4日(備讃瀬戸、燧灘)

出現量

個(尾) / 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	66.75	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	23.50	1.38
備讃瀬戸平均	1.00	0.07	0.00	0.00	0.00	0.00	7.67	0.73
燧灘平均	7.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	6.14	0.43
総平均	20.00	0.10	0.00	0.00	0.00	0.00	11.53	0.83

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	220.0%	9.7%	0.0%	0.0%
備讃瀬戸平均	17.7%	2.3%	0.0%	0.0%
燧灘平均	11.3%	0.0%	0.0%	0.0%
総平均	60.4%	1.3%	0.0%	0.0%

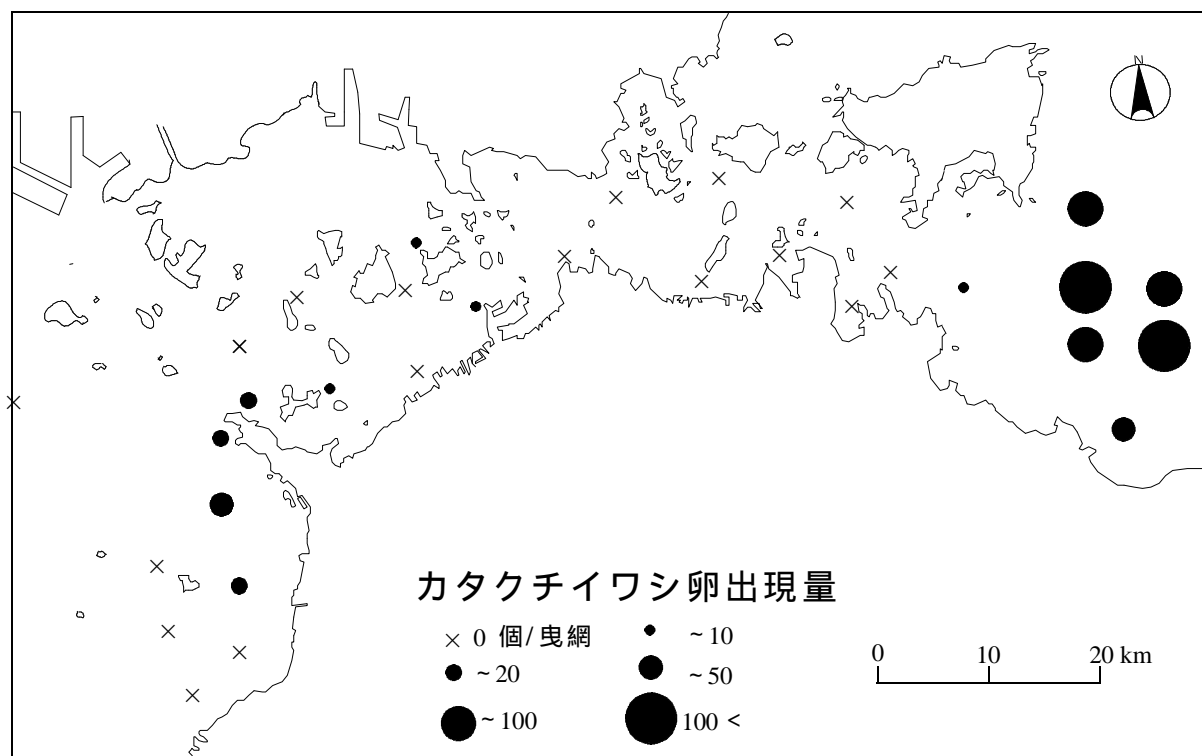
- :平年値が00の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55(1980)～平成17(2005)年度

マイワシ：平成5(1993)～平成17(2005)年度

各調査点でカタクチイワシ卵の出現は、次のとおりである。



2. 漁況

6月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	底びき網は全般的に低調で、例年に比べて小エビ類、マアナゴが少ない。桁網ではコノシロ、グチ、コウイカ類が漁獲されているが、マアジ(小)が少なく、全般的に低調である。大型定置網では主にマルアジ、スルメイカ、タチウオ中心に漁獲されているが、例年に比べてタチウオが少ない。東讃の機船船びき網の6月の漁獲量は約6トンで前年の3%と大きく下回り、過去最も少ない漁獲であった。
備 讃 瀬 戸	底びき網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、マアナゴ、小エビ類、コウイカ類、テナガダコが漁獲されている。建網ではメバル、セトダイ、マダイ、カサゴ、アイナメを漁獲している。
燧 灘	底びき網では主に小エビ類、アカカマス、メイタガレイ、タチウオを漁獲している。瀬戸内海機船船びき網の7月上旬までの漁獲量は1,451トンでほぼ前年並みであったが、チリメン漁は低調である。7月1日以降はチリメン漁を行っている。